

SIOP と ICCPO の宣言 「Yes, We Can! 小児がんは克服できる!」

<ジュネーブ発 2013年2月15日>——今日は、「国際小児がんの日」です。この日は、小児がん患者の子どもたちとその家族の、力、勇気、そして忍耐力を皆で認め、喜びあう日です。

私たち、国際小児がん学会（SIOP）と国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）は、世界中のメンバーたちと共に、それぞれのコミュニティ、学校、病院、そして社会一般の方たちに発信いたします。親たちは、小児がん専門医、小児科医、看護師、公衆衛生の専門家たちと共に、小児がんと、その治療に関する非常に大切な情報を広めてまいります。

SIOP と ICCPO は、世界中の政府機関に対し、小児がん克服に力を尽くすよう呼びかけています。その内容は、早期発見のためのプログラムの実現と、誰でもが受けることのできる“最高水準の治療”の提供であり、また先進国において行われている標準的な治療手順が途上国においても使われるようにするという事です。SIOP と ICCPO の二つの組織は、1500人以上の小児がん専門医と世界の人口のおよそ85%をカバーする世界各国の158の親の会を代表しています。

小児がん学の分野は、1950年代に小児がんに対する体系的な治療法が行われるようになったときから、大きな前進をとげました。先進国においては、1960年代には20%であった5年生存率が、21世紀初頭には80%まで改善され、今では殆どの小児がん患者の治癒が期待されるようになりました。しかし、大多数の小児がん患者が住んでいる途上国、特に低・中所得諸国には、大きな問題が残されています。それらの国では、単に早期発見の仕組みや、治療とそれに関する知見が無いという理由で、いまだに多くの小児がん患者たちが命を落とし続けています。早期発見を促進する初期症状についての簡単な資料は既に存在しており、それが使われるとともに先進国で証明されているように適切な治療手順が途上国でも採用されれば、双方のギャップは無くなります。たとえば、先進国では、急性リンパ性白血病（ALL）の治癒率は80から85%であるのに対し、途上国ではずっと低いのです。

ブラジル、ドミニカ、ガテマラにおけるケーススタディでは、北米と西ヨーロッパのALLの治療手順を取り入れることで、子どもの生存率が大きく向上することが証明されています。その上、一般市民への教育と理解促進のキャンペーンにより、発展途上国においても早期診断の率が高まることも分かっており、早期発見と適切な治療により、がんが進行してからの過酷な治療による後遺症を避けることも可能なのです。たとえば、ホンデュラスでは余り資金を必要としない国民の理解促進のためのキャンペーンにより、網膜芽腫の目以外への転移を73%から35%まで減らすことができています。

SIOP の会長であり、また小児がん専門医でもあるガルリエレ・カラミナス医師は語っています。「実

証されたものがすでにあるのです。何を待っているのですか？今、行動に移せば何千もの命が救われるのです！政府は自国の国民を守る責任があります。30年以上前に書かれた The Alma-Ata 宣言は、全ての人が医療サービスを受ける権利があることを宣言しています。しかし、現実には 2013 年の現在、これはいまだ目標であり現実とはなっていないのです。」

ICCPO の会長であり、小児がん経験者の親でもあるケネス・ドールマン氏は、「私自身、知見不足により子どもを誤診された経験を持っています。ICCPO のメンバーとそのパートナーたちは、世界中の小児がんの早期発見のためのプロジェクトをサポートしており、すでに多くの前向きな政府の支援を得ています。このような理解促進と早期診断のプロジェクトを支援することは、政府にとって進行してしまったがん患者の治療にかかる費用を節約することができるという経済的な意味だけではなく、国民を心痛や悲しみから解放することにもつながるのです。」

我々二つの組織は、協調する NGO や WHO 世界保健機構などの国際的組織の支援を得ることで、特にニーズが高い地域での小児がん対策が促進され、事態の改善に向けた大きな転機が来ていることを、希望のかつ楽観視しています。

小児がんの専門家たちは、本年の 9 月 25 日から 28 日の間、香港にて開催される第 45 回 SIOP 国際会議において、今後の実践計画を進める予定です。

本件に関する、更なる情報についての連絡先は以下の通り：

Marianne Naafs-Wilstra
ICCPO c/o VOKK
Schouwstede 2B, 3431 JB Nieuwegen
NETHERLANDS
Tel: +31 30 242 2944
icccpo-secretariat@vokk.nl

Jose Julio Divino, MPH
Senior Adviser, Advocacy and Communications
SIOP Secretariat
1-3, rue de Chantepoulet
1211 Geneva, Switzerland
Tel: + 41 22 906 9123
advocacy@siop-online.org

国際小児がん学会（SIOP）について

がんの診断がついた小児及び若年成人に伴う諸問題を研究、解決しようと 1969 年設立された会員数 1500 名を超える世界的な学会である。“がんで死亡する子どもをなくす”ことを目標に、SIOP は以下を使命とする：1) がんの診断がついた小児や若年成人のすべてが最新の治療およびケアを受けることができるようにする。2) 小児がんに関連する世界中の人々が、会議やネットワークを通して最先端の医療を知る



ことができるようにし、医療従事者はさらなる発展を目指し努力し続けることを約束する。3) 最良の治療および緩和技術の提供による小児がんの子どもと若年成人への支援を行う。4) 治療終了後の小児や若年成人への適切な長期フォローアップの支援を行う。SIOPはDr. Gabrielle Calaminusを会長とした理事会で構成され、ジュネーブ（スイス）に本部を置く。ホームページ www.siop.nl

国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）について

ICCCPOは小児がんの子どもを持つ親の会としては世界最大の団体である。医療者や家族が、そしてより広い地域社会も、小児がんの子どもとその家族が直面する短期的/長期的問題に関してよく理解し、診断時、そしてそれ以後、世界中のどこにいても可能な限り、最良の治療を受けることができることを願っている。そのためにICCCPOでは、情報や積み上げてきた経験をすべての家族と共有することを使命としている。ホームページ www.icccpo.org

（日本語訳協力：松本光代氏）